田舍源氏二十四

へ13
3742
24

東都柳亭種彦園主編校輯

俳諧芳州集 全二冊 用板 遊東都吳服橋通江戸尾張屋彫刻

俳諧叢藻集 全二冊

俳諧全四歌仙 全一冊 用板 梅園 赤本 相模屋小圓 四大人の作なり 発句の俳諧

東都柳亭種彦園主編校輯

俳諧 今人俳合集 全四冊 海内名家四方八方及び名所名物人々の俳合五百首を始め四時の景物おもしろくよみそなるの新古あり

元文天保に至る第七年 乙巳閏

俳諧 今人叢白集 全二冊 赤表紙 年号 春出板

書肆 江戸通油町 仙鶴堂

第廿四編上冊

柳亭種彦作

歌川國貞画

九四編上
九四編下

門 へ13
3742
巻 24

雅楽の源氏

第廿四編 下冊

種彦作

国貞画

仙窟堂壽梓

かくてさ洞をや絶ぬ
ゆくとてとせをとめ
清の人とをるらん

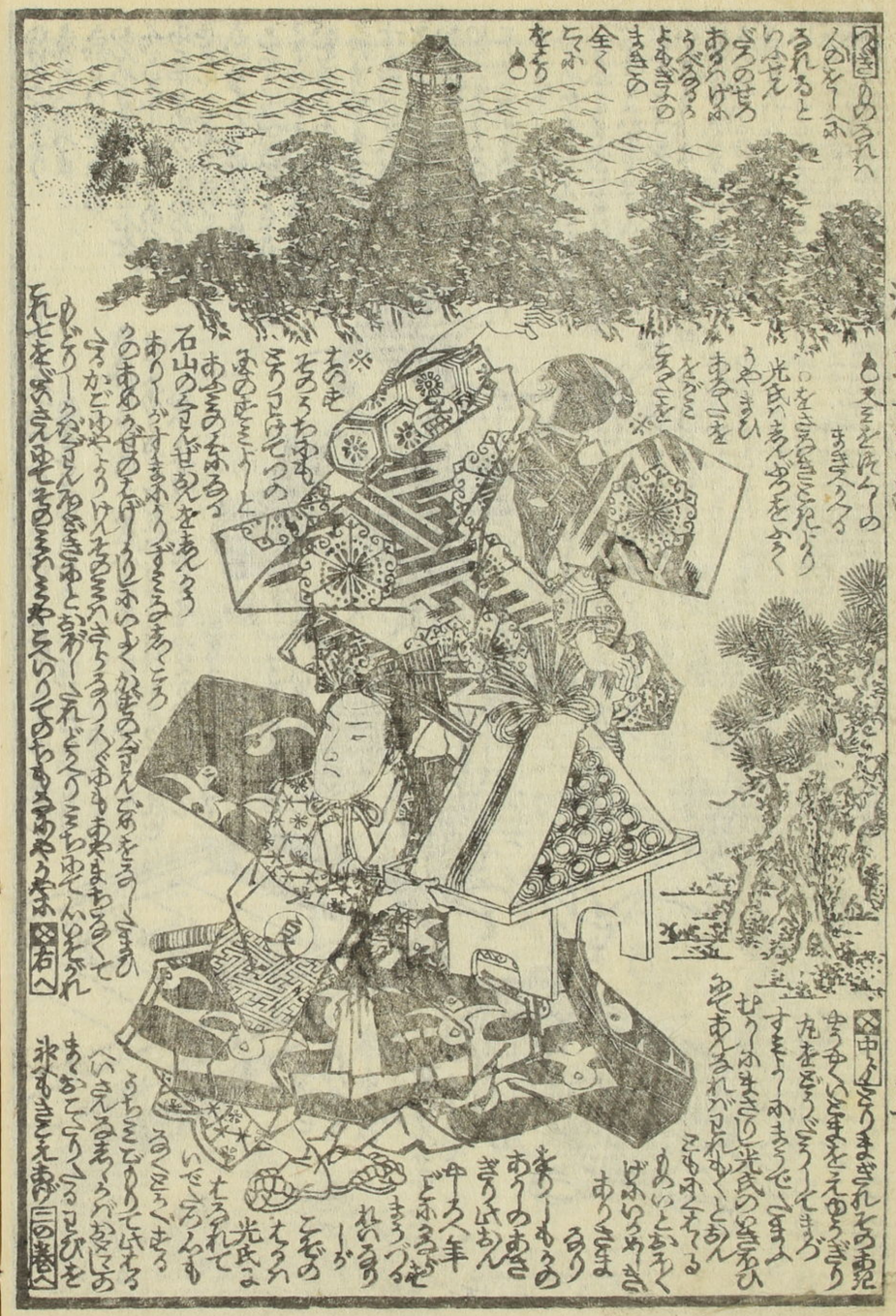
是第廿四編を歌舞妓の根本ゐ譬ゝ口明ハ澪標の續き
ゆゑ作を物住吉の社の景ヨ掲掛り一面の松並木其緑ヨを
明ゆく連くまるゝく宮系り岸ゆを浪の音高く陸ハ初知入
行列を遠見ヨ袖もぬるゝある田義の島や雑波江ヨ道奥
かたりそ口明の詰を六條田甫乃仮住隣家の琴の明ゆ
幕ひらくと橋の縁語景を紅葉ヨ河ハ坂山石山詰でも
おもゝ澪の行ヨ田舎歌閑屋をちらと二ヵ目へさゝあゝ
帯の系所を笠ゝ系ゆかゝる世話場を轉じく時代蒔繪の
東山大級素袍の諸士の大詰いづまもゝちの打出しを又
ゝ紙つくるゝち戻り閑屋のすゑ後日ヨ待しゝ

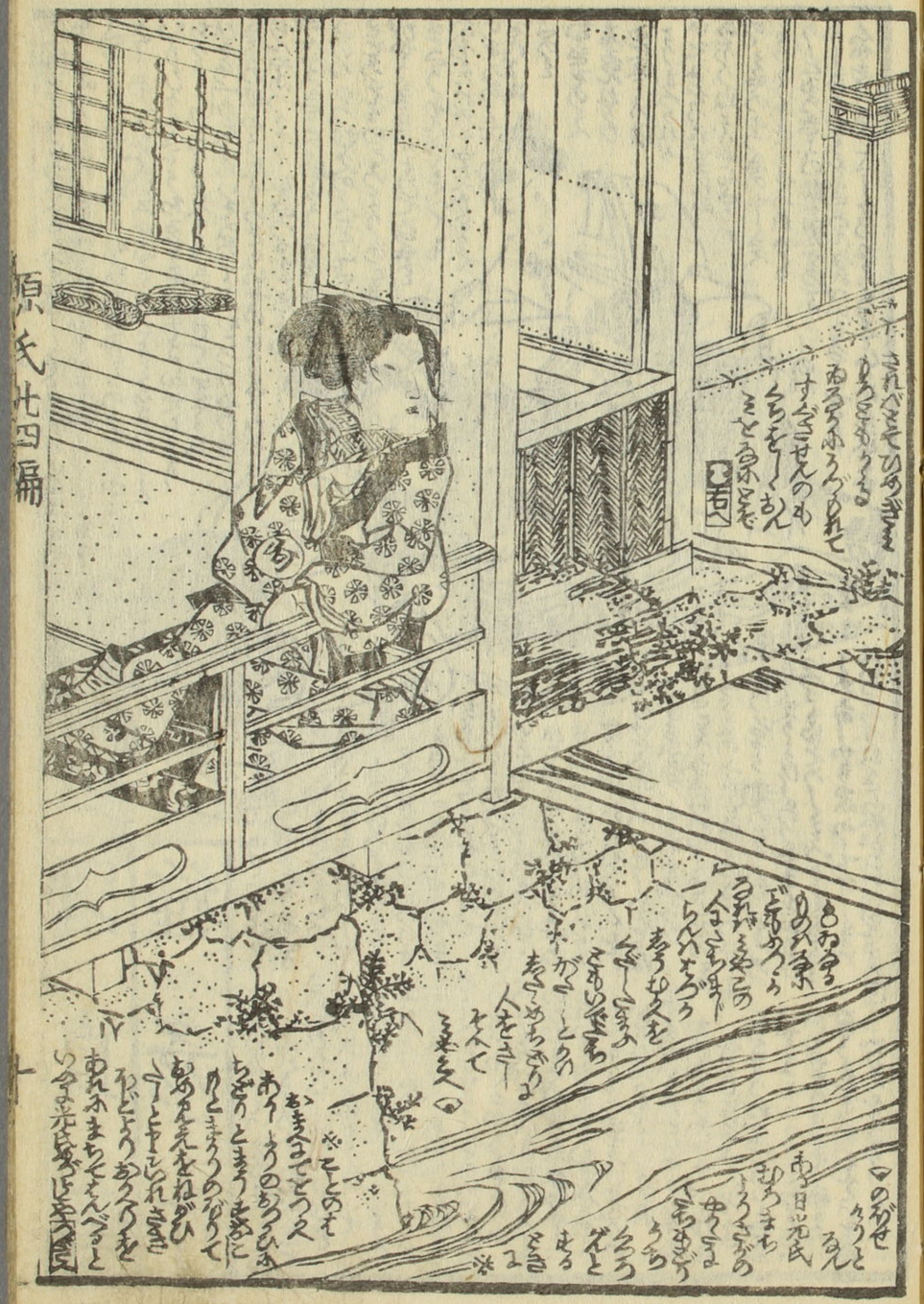
天保丁酉解凍

柳亭種彦記

阿古木の女
磯菜
光氏

きよ
喜代之助の
妻
空衣
うみ
逢坂の関や
いろなら世見るれば
あげき数の

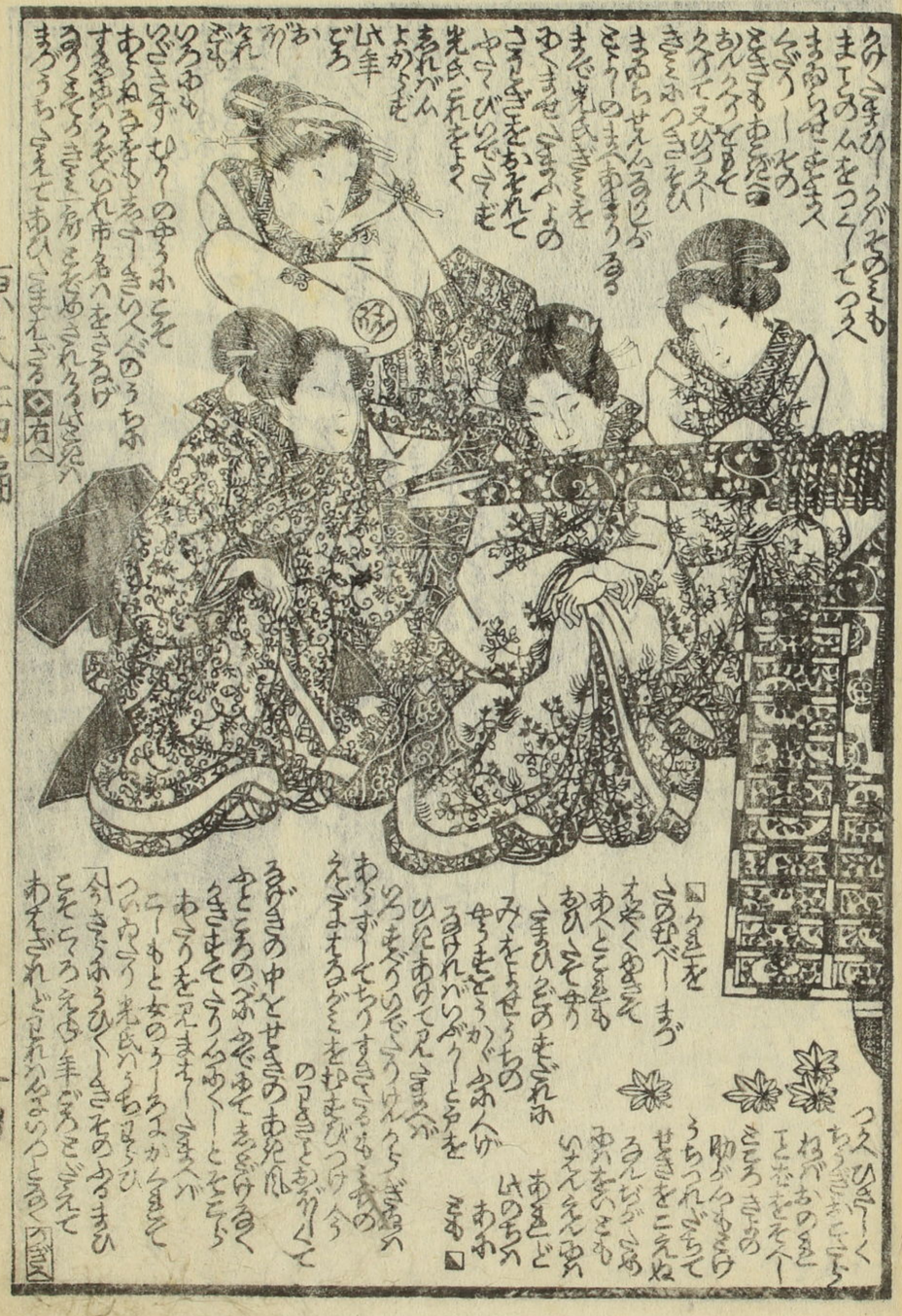




國貞画
種彦作

◇居

ときもをひろげてのちさてろんだれあさの
うーうえののちかゆうきのえかさうー
えれびきーの助が
かんざうせーうー
きょあん
まぎ
ひと
びも
光
氏
氏
ろう
ーえ

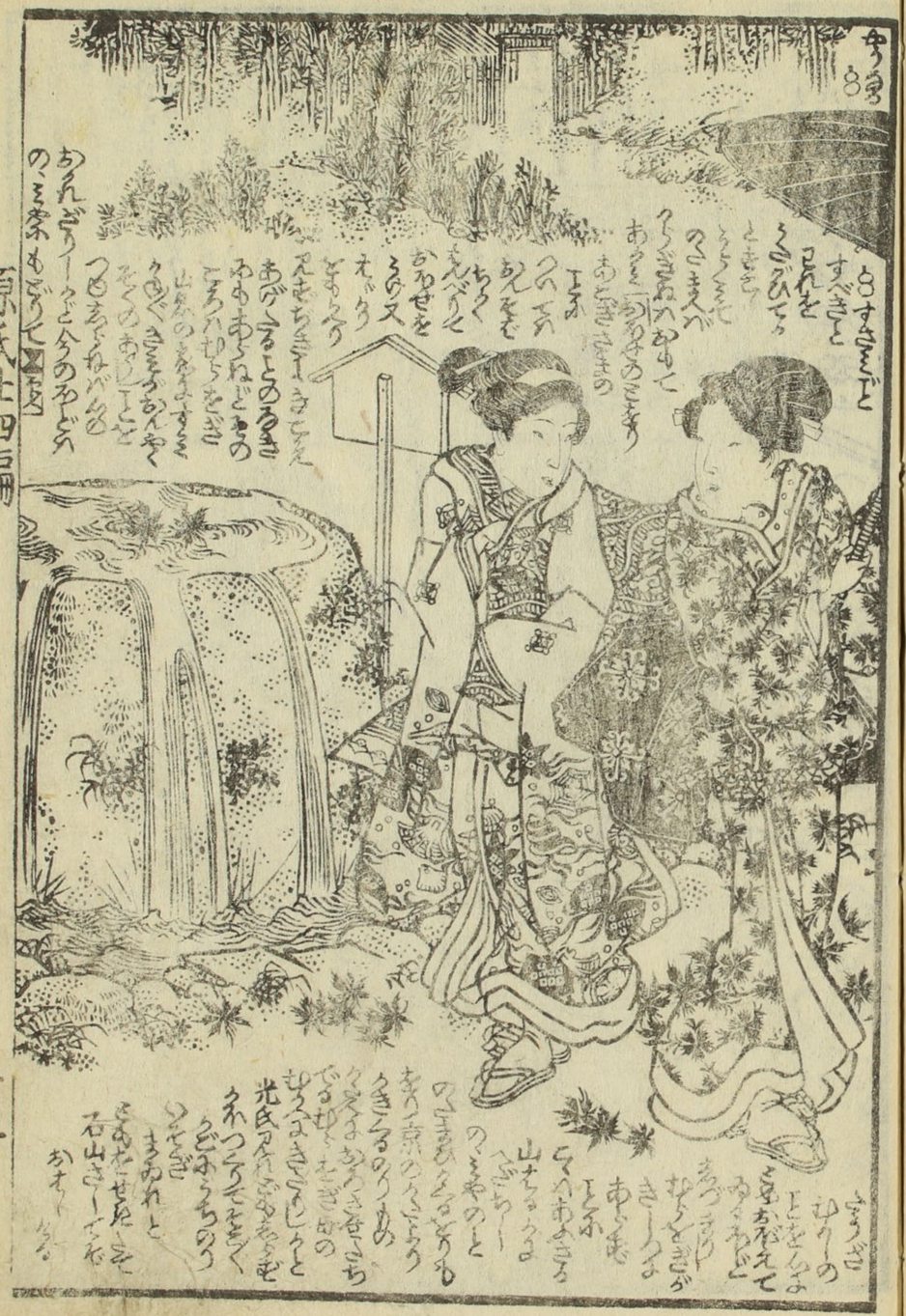


みーまひーがそあえも
まてあんをつくーてつえ
まあらせーまえ
ぐうーーえの
きもあえだ
あんえがそもて
えがてえひうえ
きえかつきえひ
まあらせんえのひが
えとうーのまえあまうる
まで光氏きえを
わくませーまんよの
さうきをおれて
やうびいでーでも
光氏それをよく
れべん
よかうも
氏年
どろ
おが
それ
ぶん
いろゆも
ぐさず
むーのゆうかえそ
あくれうをもあーきいえのうちか
するまいえをいれ市名ハをさうげ
ゆうまてうきーあうえあえれうさえハ
まううちうまえてあいーまんざる

◇居

つえひうーく
ちうきうとうう
ねびおの光
ーとおをえへー
ところきの
助がうきけ
うちつれうちて
せきをこえね
うんちがーあ
ゆいをのうも
いえんえんゆ
あえど
はのちい
あれ
きも

◇光氏をこのむべーまう
おやくあきえ
あくとうえも
あいえそう
うまひうえのまうれは
みをよせうもの
やうもをうかーあ人が
うけれべいうかーとうを
ひえあけてんまえが
いろまうりのぞうけんうーざゆえ
あうずーてちうすきうるもうまの
えうーよまうるうーうをむまひつけ今
のうきうとあうりくて
うびきの中とせきのあえれ
かところのうあえそまうけうく
きまをそううゆくーーとをとう
あうをんまちーうまへ
ーもと女のうーうえかうまえ
いわうり光氏いうもううひ
今きうふうひくーきえのうるまひ
こをとうえも年ごろとうえて
あをうれどうれいうよいうとうく



國貞画 種彦作

浄書千形道人友

義艶仙女香
黒油美玄香
南鞘町三丁目西側
坂本氏製

天保八年丁酉初春新彫

偐紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

当年出二編より九六編まで刷板おかるべき所笑覧之稿毒毒

一筋道雪眺望

笠亭仙果作
全四冊
歌川國芳画

飛翼連理恋の櫻樹

通用亭徳成作
歌川國芳画

森羅万象心意氣

玉柳亭徳升作
全四冊
歌川國芳画

敵鯉差身業物

全四冊
歌川國芳門裡画

琴声女房形氣

山東庵京山作
全四冊
歌川國貞画

茶番のいろは

二冊

火焚だゝア

二冊

浦島爺

三冊

きちゑんとく

三冊

四十八銅
書物錦繪
圓扇地紙
問屋
江戸通油町
鶴屋喜右衛門